

*今年度は、アンケート項目を保護者、児童と合わせる形で見直しを行った。

令和3年度学校評価報告

甲府市立新紺屋小学校

学校教育目標

「かしこく 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」

I. 「学校運営に関して」 (評価項目1～7)

*主に「あてはまる」が「ややあてはまる」より下回っている項目、昨年度と比べて「あてはまる」率が下がっているまたは全体として低い項目について課題として列挙した。

◆ 集計結果の考察

- ・1項「学校教育目標や経営方針(重点)の共通理解が図られている」については、昨年度から「あてはまる」率が増え、また、保護者アンケートの13項「学校の教育方針や活動内容について関心を持っている」率が高いこともあり、教職員が同じベクトルで教育活動を行っていく意識の向上が図られたことは成果として挙げられる。学校は楽しいと回答する児童がほとんどであり、この傾向は保護者も同様で昨年度から肯定的な評価の割合が増えた。
- ・全体的に良い評価結果であるが、肯定的な評価の中でも気になる項目として、
2項「教育活動は、評価・改善(PDCAサイクル)し、次年度に生かすようになっている」、
3項「校内支援体制が整えられ、個に応じた指導が効果的に推進されている」、
4項「校務分掌組織は適切で経営重点達成をめざすために機能している」、
5項「校務について見通しを持つ中で効率化を図り、働き方改革を推進している」、
7項「登下校の交通ルールや避難訓練など児童の危機意識を高める指導や安全指導を行っている」については、比較的「あてはまる」割合が昨年度と比べ低くなった。20名程度の集計では一人の判断が全体の結果に大きくつながることもあり、人事異動での教職員の入れ替えによる捉え方の違いに寄るところもあるが、振り返りを次の活動にしっかりと生かすこと、チームとして協働して学校教育目標の実現に努めることを折に触れ管理職を始め、職員が声を掛け合うことで意識の向上につなげていく必要がある。

◆ 学校関係者評価

- ・コロナ禍で大変な中、先生方には大変一生懸命子供たちのために思い、面倒を見ていただき感謝している。
- ・先生方と保護者に多少温度差があるものの、概ね目標は達成されたと思うが、保護者の災害時等にどのような行動をするか身に付いている項目で「あてはまる」が低いのが気になる。
- ・コロナ禍でいろいろなことを変えていかなければならない中で、効率化や連携が大変だなと感じている。
- ・登校班の交通ルールや避難訓練の意義を低学年から高学年に分かりやすく指導してほしい。
- ・児童の質問項目3防災防犯に対する理解について、「あまりあてはまらない」が7人いたのは気になった。危機意識を高める必要があると思う。

◆ 課題の改善策

- ・2項「教育活動は、評価・改善(PDCAサイクル)し、次年度に生かすようになっている」
 - 3項「校内支援体制が整えられ、個に応じた指導が効果的に推進されている」
 - 4項「校務分掌組織は適切で経営重点達成をめざすために機能している」
- 肯定的な評価としては100%であるが、昨年度に比べて「あてはまる」率が下がったことに対して、PDCAをどの教育活動においても意識し、次年度に生かす具体策を考える。個に応じた指導は、令和の日本型学校教育の柱の一つである「個別最適な学び」につながるものであり、その実現に向け、学習指導員や山梨大学院生、教育ボランティア等との連携について、より明確な関わり方や効果を考えていく。可能な限り、授業での様子を聞き、コンサルテーションを行う中で、次の活動に生かしていくようにする。このようなちょっとした情報交換が職員間の有機的なつながりをもたらし、分掌組織が目標達成に向けて機能していくものと考え。指導力向上に努めることは責務であり、チーム学校の実現に向けても不可欠である。単学級だからこそ、職員間の連携を強化し、組織的に取り組んでいく必要がある。報告、連絡、相談を管理職ばかりでなく、職員全体への実施を励行する。

- ・5項「校務について見通しを持つ中で効率化を図り、働き方改革を推進している」
→ 今回新たに追加した項目である。肯定的な評価としては高いが、「あてはまる」率が全項目中で一番低い。コロナ禍で、従来通りできていたものも、延期や中止となり、当初の予定を変更せざるを得ないことも原因の一つとして考えられる。時間外時数をグラフにして掲示することで職員の勤務時間に対する意識づけを行ったりしているが、産業医にかかる基準の連続して80時間以上を越えなければよいという認識もあるので、内容の精選や変更、業務の効率化を図ることを、定期的に声掛けを行い意識化していく。GIGAスクール構想が前倒しとなり、その取り扱い方について時間を有したことが負担感につながっていた。使い慣れてくるとメリットも多くなり効率化も図られると思われる。
- ・7項「登下校の交通ルールや避難訓練など児童の危機意識を高める指導や安全指導を行っている」
→ 「避難訓練など」防災、防犯も含めた安全指導を追記したためか、「ややあてはまる」率が増えた。児童や保護者のアンケート項目にも新たに追記した項目であるが、特に保護者は子供の危機対応に不安を感じている。避難訓練自体、参観する機会もないことも要因の一つとしてあげられる。どのような訓練をしたかHP等で確認したり、家でも話題にさせていただき、どう避難するかシミュレーションを子供と一緒にやるよう促したりしていく。

◆ 評議員会の提言（次年度にむけて取り組んでいく内容）

○学校運営について（1～7項）

- ・学年間のつながりをいっそう意識したコミュニケーションの励行を進めていく。
- ・危機意識の向上に努める。

Ⅱ. 「学習指導について」（評価項目8～11）

◆ 集計結果の考察

- ・肯定的意見が多く昨年度と比べても「あてはまる」割合が高く全体的に好評価であった。ただし児童アンケートでの5項「先生は、わかりやすく教えてくださいか」は昨年度から若干下がっており、6項「学級の友達の前で自分の意見や考えを言いやすいか」については昨年度から改善傾向にありつつも「ややあてはまる」率が高い。保護者のアンケートにおいても5項「きめ細かな指導を受けて、授業の内容を理解している」について、「あてはまる」率が微増したものの「ややあてはまる」率が減少し、若干肯定的評価が減少している。
- ・11項の読書については、全体として昨年度に比べ肯定的評価が上昇してはいるが、教職員の自己評価に比べて児童や保護者の捉え方は「ややあてはまる」率が高く、認識の違いが顕著であった。

◆ 学校関係者評価から

- ・特に問題はないように思う。ただ、学校休校中できれば、onlineで授業があっても良かったと思う。
- ・先生方の肯定的な意見が多いのに対して、保護者の方の「あまりあてはまらない」が多いのが気になる。特に読書については不安を感じている方が多いように見える。今後の指導に期待したい。
- ・児童たちの発達に気を配っていただき、楽しい授業、分かる授業に取り組まれており嬉しく思う。
- ・児童によって理解度が違うと思うが、一人一人に気を遣って指導してほしい。大変だが頑張してほしい。

◆ 課題の改善策

- ・9項「ねらいを明確にし、一人一人の発達に配慮して児童の良さや特性を引き出し、楽しくてわかる授業を実践している」
- 10項「児童同士で学び合える形態や教材等を工夫し、授業改善に取り組んでいる」
→ 授業においては、校内研究で取り組んでいることを中心に、教職員はアクティブ・ラーニン

グの視点で授業改善を行い、ICTを有効活用してより分かりやすい授業やきめ細かな学習指導に努める。特に、主体的な学びに関わって、見直し・振り返りをしっかりと授業に位置づけ、次時の授業につながるようにしていく。

*アクティブ・ラーニング「主体的・対話的で深い学び」：

(主体的な学び) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見直しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。

(対話的な学び) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び。

(深い学び) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

*「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理し、それを育成するために「何を学ぶのか」という必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶのか」という子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。

11 項「読書の面白さに気づかせながら、読書に取り組めるよう指導・支援している」

→ ボランティアや教務職員による読み聞かせ、読書週間に伴う各種イベント、おすすめの本の紹介を各自で作成し掲示、学級文庫の定期的な本の入れ替え、家読ポップコンクールへの応募等、子供たちが本に親しんでもらえるよう取組を行っている。今後も本との出会いを工夫しながら働きかけていく。

◆ 評議員会の提言（次年度にむけて取り組んでいく内容）

○学習指導について（8～11項）

- ・学校全体で授業に臨む姿勢として授業づくりのポイントとしてやまなしスタンダード、具体的な取組として甲府スタイルの再確認と着実な実施を行っていく。
- ・学校の特色をしっかりと継承しつつ、新しい学習指導要領に係る教育課程の実現から、関連性を明確にして活動を行っていく。

Ⅲ. 生徒指導について（評価項目12～14）

◆ 集計結果の考察

- ・全体的に肯定的評価が多く特に12項、14項については100%であるが、12項の挨拶については改善傾向にあるものの児童、保護者共に「ややあてはまる」率が高い状況が見られる。コロナ禍であることもあり、児童会自体の活動も活発にできていない状況もある。見守り隊の方からは、学年が上がるにつれ、挨拶ができないという声も聞いている。
- ・14項いじめを含めた予防や早期発見等の対応については昨年度に比べて「あてはまる」率は上昇しているが、保護者からの評価では「あてはまらない」と回答した方もいる。この項目については、数値が低いからといって看過できないものである。

◆ 学校関係者評価から

- ・特に問題なし。
- ・「あいさつ」について、先生方と保護者では温度差がある。先生方の努力は評価する。学校だけでなく、家庭内や地域での挨拶の向上に期待する。
- ・児童たちの悩みやSOSの発言を寄せられるよう受け止めていただいております、大変だがお願いしたい。
- ・先生と児童の話し合いをして意見を聞き出し、一人一人の気持ちを理解して指導してほしい。
- ・保護者の質問10「いじめのない学級づくり」について、「あまりあてはまらない」が3人いたのは気になった。保護者がそのように感じていることからすれば対応が必要と思う。

◆ 課題の改善策

12項「児童会活動のあいさつ運動と連動し、教師自ら日々あいさつのある生活を送っている」

→ 保護者評価において若干課題と感じているところがある。普段の職員室への出入りについても、約束にしたがって挨拶をするが、早口で形式的になるときもある。自ら進んで挨拶することについても課題があると感ずることもあるので、何のために挨拶するのか、折に触れて、確認し気持ちのある挨拶ができるようにしたい。昨年度も同様の課題が挙げられているので、今一度、教職員で共通理解を図ると共に、保護者にも協力をお願いし、挨拶が習慣化できるようにしていく。

14項「児童の悩みや相談を聞き、いじめ・不登校・問題行動等の予防や早期発見及び速やかな対応を行っている」

→ いじめ防止対策により、本校の「いじめ防止基本方針」を更新し、HPにもアップした。これを広く周知し、保護者、地域と連携して進めていく。児童が悩み苦しんでいるときに、自らSOSを寄せられるような雰囲気づくりをしていく。

◆ 評議員会の提言（次年度にむけて取り組んでいく内容）

○学校運営の状況について（6～17項）

- ・改訂「いじめ防止基本方針」の周知と連携の強化を図っていく。
- ・自らSOSを寄せられるような雰囲気づくり環境づくりに努める。

IV. 連携について（評価項目15～16）

◆ 集計結果の考察

- ・全体的に肯定的評価が多いが、15項について「あてはまる」率が前年度に比べ、やや低下する結果となった。保護者の11項に関連する質問においては前年度よりも「あてはまる」率が上昇し、教職員の認識とほぼ同じ状況が見て取れる。一方、児童の11項に関連する質問においては、前年度に比べ「あてはまる」率は上昇したものの、教職員や保護者の認識とはズレが生じている。
- ・16項でも肯定的な評価が高く、児童保護者においても関連した12項の質問に対して、前年度の結果よりも上昇してはいるが教職員との結果にはズレが生じており、情報を発信し理解を得ている認識に温度差があるという結果が見て取れる。

◆ 学校関係者評価から

- ・コロナ中でも、先生方と連絡はできていると思います。メール等でやりとりできると、なお良い気がします。
 - ・全体的に評価できる。14項「ノートや学習プリントなど、よく見ている」について「あてはまる」が低い点が気になる。私見であるが、学校任せの保護者が多いのではと思う。
 - ・PTAと各地区との連携がコロナ禍で大変だが、学校としての対応は順調であると思う。
 - ・学校とPTA（保護者）、地域のコミュニティで知恵を出し合い改善して、協働的な取組を推進していく。
 - ・教職員の質問16について「あてはまらない」が1人いるが、具体的な理由を確認する必要があると思う。
- 学校としては昨年度よりも情報発信を積極的に行っていて「当てはまる」に入るが、担任個人としての反省として「あてはまらない」を選択した。

◆ 課題の改善策

15項「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している」

→ 児童が相談しやすいと思うことが第一であるので、学校全体として、全教職員が全校児童をみるという意識で、安心して学校生活を送ることができ、不安や悩みが出たときには共感的に話を聞き、一緒に悩み解決していく体制を構築していく。

16項「教育活動や児童の様子をお便りやHPを通して、家庭や地域に知らせ理解を得ている」

→ 昨年度に比べ、学校での様子をHPにUPしたことで、保護者からも自身の子供が所属する学年ばかりでなく学校全体の様子が分かって良かったというコメントをいただいた。不定期に連絡する安心メールにHPのURLを貼るなどしてアクセス数を増やすなど、折に触れて紹介するようにしていき周知を図る。

個々の分掌も多く、ますます職員間で連携することが求められる。連携していて学校全体で取り組んでいることが伝わると、保護者や地域のより一層の協力も得やすくなり、「チーム新紺屋小」の学校力向上に寄与するものと考え。また、地域とは「with コロナ」の中で連携の在り方を考えていく必要がある。地域と対話を通して更なる連携を構築していきたい。

◆ 評議員会の提言（次年度にむけて取り組んでいく内容）

○教育活動の状況について（14～20 項）

- ・情報共有を図り、学校・家庭・地域の連携のもと課題改善を図っていく。

V. その他（本校の教育に関わること全般）

◆ 学校関係者評価から

- ・コロナで社会の有り様が変わっていく今、学校やPTAの在り方の変化を受け入れる時が来たのかもしれない。でも、子供たちが元気に外で遊ぶ姿はずっと残ってほしいと思う。
- ・終息感が見られないコロナ禍で子供たちの安全を第一に考えて指導されていることに感謝する。
- ・時間差登校や分散登校など大変だが、皆さんには体に気をつけてほしい。
- ・先生方も一生懸命に仕事をされているが、目の届かないところもあると思う。個人の児童の家庭のことも知っていることが大事だと思う。
- ・全体的に肯定的な意見が多かったと思う。コロナ禍での学級の取組が評価されているということだと思う。

◆ 課題・改善策

- ・コロナ禍により、子供たちの精神面でのケアも含め、安全・安心して学校生活を送れるようにしていくことが求められる。感染状況を常に注視し、国や県の動向による市教育委員会の指示のもと、情報を共有する中で、家庭と連携しながら感染対策を講じていく。

◆ まとめ

全体的には、概ね良かったという評価である。「ややあてはまる」と感じている評価者も多いため、油断していると崩れていくという危機感と緊張感は引き続きもって努めていきたい。

保護者からは、日頃一人一人を大切にしたいきめ細かい指導に対する感謝の意のコメントを寄せていただいた。市役所や県立図書館、警察署や消防署、商店街や自然豊かな八幡神社等、学校の立地条件はとてもよいので、その利点を生かした体験活動を仕組み、新紺屋小の特色ある教育活動の推進に努めていきたい。

課題としては、今後、個別最適な学びと協働的な学びの推進を図る際、個々の実態把握とそれに伴う教材研究などから教育的効果をあげるためにどうしたらよいかという教育活動内容の工夫が求められることと、それと並行して多忙化改善をどのように図り働き方改革を推進していくかが大きな課題として挙げられる。メリハリのある仕事の進め方を意識し、教員間でのコミュニケーションを一層図りつつ改善を行っていきたい。

文部科学省が目指しているコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）がある。これは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）に基づいた仕組みである。今後はコミュニティ・スクールに向けた動きも出てきている。本校は、見守り隊として協力いただいている方も多く、既に、地域と密接な結びつきがある学校ではあるが、高齢化が進み身体的な負担から辞退する方も増えてきている。また、甲府駅に一番近い学校であるという立地から転出入の児童も多い学校である。今後は、それぞれの善意や思いからの協力だけではなく、制度の下に義務と責任が生じることへの理解を図っていくことが求められる。学校でできること、地域や保護者でできることを整理し、より良い学校運営の在り方についてチーム学校として考えていきたい。